

朱鷺生態調査



企画部 参事 磯部 滋

1. はじめに

日本では、平成15年10月に日本産最後のトキであるキンが死亡し、国産種のトキは野生絶滅しているが、中国産のトキのペアリングにより平成18年度から順化を開始し、平成27年度頃に約60羽のトキを定着させる予定である。

現在、リバーフロント整備センターでは、新潟県より「トキの野生復帰に向けた川づくり」を受託し、佐渡島全体の今後の河川のあるべき姿及び平成18年度以降のトキの野生復帰に向けての総合的な取り組みの一環となる川づくりの検討を実施している。

本現地調査は、平成16年8月11日から15日まで野生のトキの生息地である中国陝西省洋県において、中国におけるトキ保護の現状と野生トキの生息環境を実際に見ることで、今後の検討の参考とすることを目的に訪れた。

2. 中国におけるトキ保護の現状

本調査で訪れた陝西省洋県は、中国の内陸部に位置しており秦嶺山脈の南麓に位置している。

洋県では、1981年に7羽のトキが再発見されてから、営巣地の監視・保護、えさ場の確保、人工飼育での繁殖など研究・増殖を目的に洋県朱鷺飼育センターを建設している。

洋県朱鷺飼育センターには、現在、約150羽のトキが飼育されており、その他野生トキを含めると人工飼育307羽、野生約270羽の合わせて約600羽のトキが生息していると言われている。



写真-1 朱鷺飼育センター内のトキの様子

3. 野生トキの生息環境

3-1 ねぐら（・営巣）環境

本調査で訪れた野生トキのソウバのねぐらは、畑

の裏山であり、サギ類（約2,000羽）と共に約60羽ぐらいが、夕方、エサ場からねぐらに戻ってくる様子が確認できた。ねぐらとして利用していたのはクヌギの木である。

日本のトキは、神経質で人がいる前では姿を現さないとの報告が多かったが、洋県の野生のトキは、農作業をしていても平気であった。

ねぐらの前にある水田は、春・秋季のエサ場となっており、この周辺一帯は、保護区に指定し農業に化学肥料を一切使用しないなど、トキの生活環境の保護に努めている。



写真-2 野生トキのねぐらとトキの様子

3-2 餌場環境

本調査時期は、夏季にあたるため水田でのトキの採餌は見る事が出来なかったが、河川やダム湖畔・その周辺の畑の採餌場を見ることができた。

また、実際に野生のトキが採餌している所も見ることができた。ねぐらでもそうであったが、トキがいる所には必ずサギ類も一緒にいた。

(1) ダム湖畔とその周辺

今回の調査で訪れた2箇所のダムは、ソウバのねぐらからは直線距離で約5kmぐらいの所にあった。

写真-3の右側のダムではその下流で営巣していることも確認されている。



写真-3 ダム湖畔と周辺の畑の様子

両ダムとも周辺は、水田や畑として利用されてい

る。トキはその畑等でも採餌しており写真-4に示すようにとうもろしを刈り取った後の畑でサギと一緒に餌を食べている所が確認できた。



写真-4 ダム湖周辺の畑で採餌するトキ(左)と畑のコオロギ(右)

(2) 河川

本調査では、ソウバのねぐら付近の川と揚子江の支川漢江の2河川を訪れた。河川内は水たまりや湿地が見られ多様な形態を残していた。トキはドジョウ以外にタナゴ類の魚なども採餌している。

また、河川内には、サギ類などの鳥類や水牛などもおり、その周辺では人々が釣りをしたり水遊びをしていた。



写真-5 ソウバのねぐら付近の川(左)と漢江(右)

このような風景は、写真-6のようにコウノトリが川で採餌するのと同様であると感じた。



写真-6 昔の円山川の風景

4. 考察

トキが日本全土に生息していた頃の健全な状態での生態に関する情報がほとんど得られていない現状では、大変貴重な経験であった。

現地調査より考察すると以下の通りまとめられると思われる。

- ①トキの生息環境として河川やダム湖等の水辺との関係は重要である。
- ②サギ類などと違い、採餌行動などは俊敏とは言え

ないことから相当量の餌資源が自然状態に必要なである。

- ③サギ類や人間との共生も十分に可能である。

トキの野生復帰は、佐渡を初めとして日本全土へ広がって行くと考えられる。当面は、山間部での取り組みが主体となると思われるが、最終的には平地部での餌の供給量をどの程度提供できるかが問題となってくるのではないかと感じた。

今後はこれらの現地調査結果も含めて、調査・研究を進めると共に広く学識者等の専門家の意見を踏まえ、来る野生復帰に向けた取り組みの一環として川づくりのあり方を提案していきたい。

5. おわりに

本調査で訪れた陝西省洋県の省都は、西安市である。西安は中国の歴史を語る上で最も重要な都市の一つである。かつては長安と呼ばれ、約2,000年間に渡って13王朝の都が置かれた古都であり、シルクロードの出発点としても知られている。

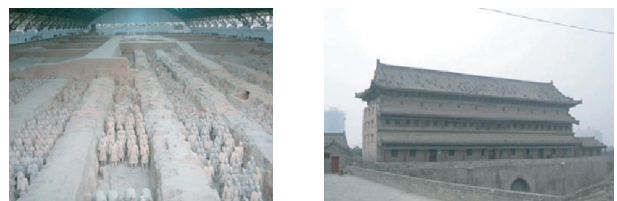


写真-7 秦の始皇帝の兵馬俑(左)とシルクロードの出発点、西の城門(右)

また、西安は、「西部大開発」戦略の拠点都市として、科学技術・文化・教育・商業・金融など各分野の拠点として発展を遂げ、豊富な歴史的遺産を背景に国際観光都市としても開発が進められている。

市内では都市の再構築のための破壊と建築の工事が至るところで実施されており、人の多さと相まって街には活気が感じられた。



写真-8 西安市内の様子